

全ての授業を

全力応援

手立て 1 明快な手順やポイント、学習モデルとなる豊富な具体例

中学生の「言葉の力」をしっかり育てたい。生徒の意欲を引き出し、豊かな学びにいけない。そして、先生一人一人が充実した授業を展開するためのサポートがしたい。「新しい国語」に込められた、そんな願いの一端を、本資料で紹介します。

「目標」「問いかけ」で学習の見通しを持つ

2年107ページ「説得力のある提案をしよう」

目標
説得力のある提案をしよう

問いかけ
「説得力のある提案をしよう」の目標を達成するために、どのような問いかけが必要か、話し合いをしよう。

説得力のあるプレゼンテーションをするために、どんなことに気をつけたらいいんだろう。

提案理由

「言葉の力」でポイントをつかむ

1 2年107ページ「説得力のある提案をしよう」

言葉の力
説得力のある提案をしよう

対話
説得力のある提案をしよう

言葉の力
説得力のある話の構成を考える

- 現在の状況や問題点の認識に誤りはないか、確かめる。
- 提案が問題を解決したり、改善したりするものになっているか、提案内容との結び付きを吟味する。
- 聞き手に分かりやすく伝えるための説明の順序を考える。
- 説得力のある説明をするには、数値などの客観的な事実や具体例を示すこと。
- 聞き手の質問を予想し、その答えを組み込むことも効果的である。

2 3年107ページ「説得力のある提案をしよう」

言葉の力
説得力のある提案をしよう

対話
説得力のある提案をしよう

資料
説得力のある提案をしよう

資料の例

ブックカフェのよさ
友達と語り合うブックカフェ（読書会）

南中学校の例
開催前……10人以下
開催後……20人程度

図書委員会の企画書

みんなが笑顔になる学校図書館を作ろう！

資料を示すことで、話の展開に見通しを持たせたり、詳しい話を補ったり、たいじなことを強調したりすることができる。

写真や映像で表すと、物や出来事の様子が分かりやすいね。グラフを使うと、数量の差や割合、変化などがひと目で分かるよ。

「振り返り」で学びを確かなものにする

5 2年107ページ「説得力のある提案をしよう」

振り返り
説得力のある提案をしよう

発表
説得力のある提案をしよう

振り返り
説得力のあるプレゼンテーションをする学習を通して、どんな力が身についたか、その力をこれからの学習や生活でどう生かしていきたいかをまとめよう。

資料を使って説明する、言葉だけで説明などを作る時にも生かしたいな。

各教材冒頭の**目標**や**問いかけ**を意識しながら、見通しを持って学習に取り組むことができます。

「話す・聞く」「書く」教材では、上段に示した手順に沿って、学習を進めていきます。

身につける資質・能力を、**言葉の力**の囲みで明示しました。「書く」や「読む」の教材でも、同様の囲みで示しています。

下段には、生徒の学習モデルとなる具体例を豊富に用意しました。

具体例には、完成作品例や発表例に加え、途中段階の対話例や資料の例など、さまざまな種類があります。

主体的・対話的に
深い学びの実現にも
ぜひ！

教材末尾の**振り返り**では、学習を振り返り、学んだことを自分の言葉でまとめ、次の学習に生かします。

目標・**問いかけ** ↓ **言葉の力** ↓
振り返りの流れは、「話す・聞く」「書く」「読む」の全ての教材に共通しています。

手立て 2 「言葉の力」がきちんと身につく教材の配列

「新しい国語」には、国語の基礎的な資質・能力をトレーニングする教材「学びを支える言葉の力」があります。本編の「読む」「書く」「話す・聞く」教材と関連して学ぶことで、「言葉の力」を効果的に育むことができます。教科書の教材配列どおりに学習を進めることで、生徒一人一人が、「言葉の力」をきちんと身につけることができる構成になっています。

教材配列の工夫（二年・第四のまとまりを例に）



1年96ページ「事実と考えを区別する」



課題を発見

基礎を習得



1年230ページ「事実と考えを区別する」

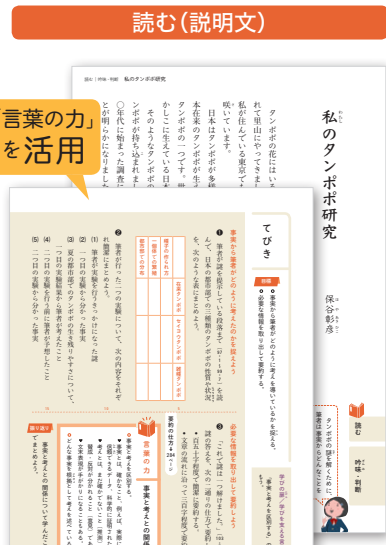
課題を解決

事実と考え

考えよう
事実と考えがどう違うのかを理解しよう。そして、事実と考えを区別しない点に困るのか、考えよう。

問題
次の高志さんの発言で、①～④はそれぞれ高志さんが事実として述べているのか、それとも自分の考えとして述べているのか、考えてみよう。

① 駅前に自転車がたくさん置かれています。これはきっと通勤や通学の人が入っているのじゃないかな。でも、駅の隣には駐輪場があります。だから、自転車はその駐輪場に置くべきだと思います。



1年97ページ「私のタンポポ研究」

「言葉の力」を習得

言葉の力 事実と考えとの関係を捉える

- 事実と考えを区別する。
- 事実とは、確かなこと、例えば、実際に起こった出来事、信頼できるデータ、科学的に証明された事柄などである。
- 考えとは、まだ確かでないこと（推測）や、人によって賛成・反対が分かれること（意見）である。
- 文末表現が手がかりになることもある。
- どんな事実を根拠として考えを述べているかに着目する。

必要情報を取り出して要約しよう

⑤ 「これで謎は一つ解きました。」103とある。その謎の答えを、次の二通りの仕方でも要約してみよう。

- 百五十文字程度で簡潔に要約する。
- 文章の流れに沿って二百文字程度で要約する。

要約の仕方 ↓ 284ページ



1年107ページ「根拠を明確にして書く」

「言葉の力」を活用

言葉の力 活用

私は、Aの写真のほうがよいと思う。

Aには、シャッターが公開の場に登場したときの姿が写っている。これは、見出しの内容とびつたり合っている。

これに対して、Bの写真にはシンシとシャッターしか写っていない。そのため、一般公開が始まった状況が伝わりにくい。

以上のことから、この記事の写真としてはAを選ぶべきだと考える。

(1) 自分の意見
(2) 根拠①
(3) 根拠②
(4) Aの長所
(5) 結論

- 日常生活で起こりがちな言葉の使い方に関わる失敗を、漫画で表現しました。
- 下部に示されたリンクに従って、「学びを支える言葉の力」にジャンプします。

- 「学びの扉」の漫画を読んで気づいた課題は、基礎編「学びを支える言葉の力」で解決していきます。
- 「考えよう」で提示された問いかけを意識しながら「問題」に取り組み、課題解決を図ることで、基礎的な力を身につけることができます。

- 身につけた基礎的な力を生かして、続く「読む」や「書く」「話す・聞く」の学習に取り組み、「言葉の力」を身につけます。
- 更に、「読む」で身につけた「言葉の力」を、続く「書く」や「話す・聞く」で生かしていきます。

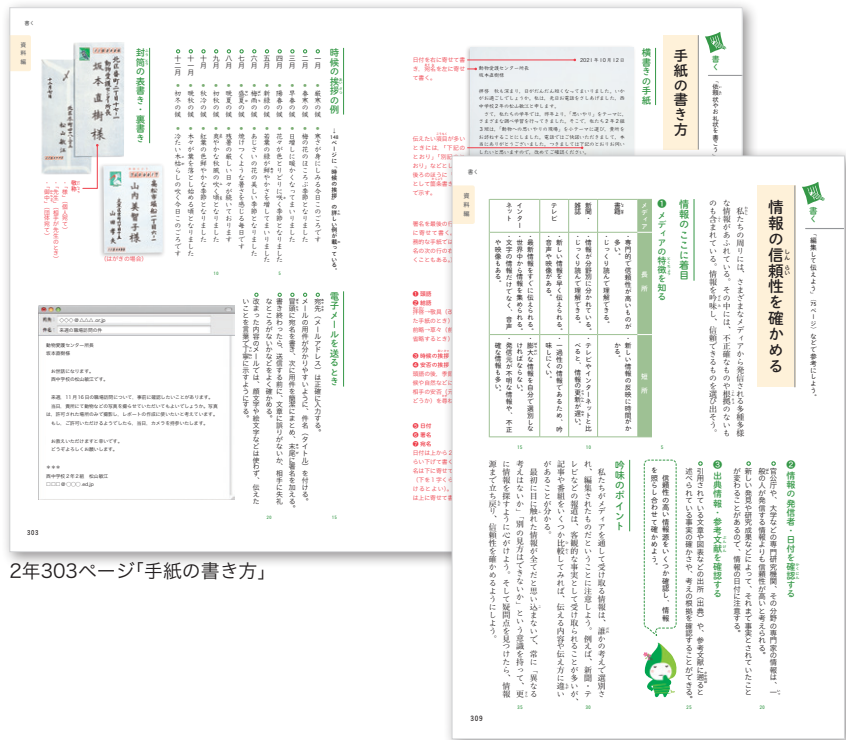
習得と活用を繰り返して、「言葉の力」をきちんと身につけます！



資料編（二年「書く」、三年「言葉を広げよう」を例に）

資料編には、「情報の信頼性を確かめる」「手紙の書き方」など、本編の学習で生かすことのできる知識を精選して掲載しています。

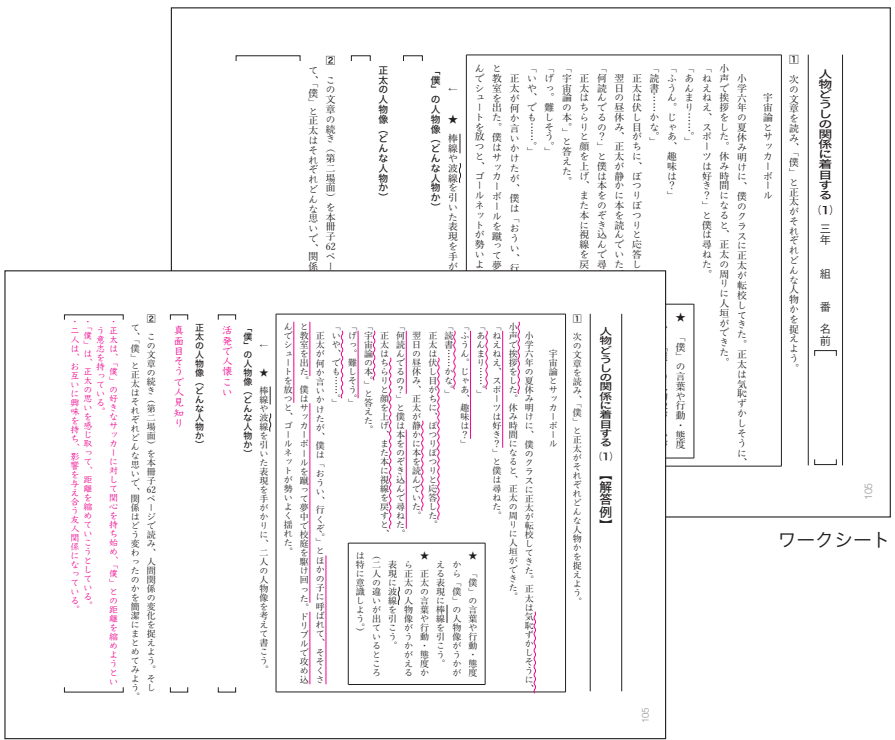
書く



2年303ページ「手紙の書き方」

3年309ページ「情報の信頼性を確かめる」

ワークシート(イメージ)



ワークシート

ワークシート解答例

教師用指導書・デジタル教科書等

* 企画中のため、変更になる場合があります。

教師用指導書「研究編」には、学習・指導の具体例や評価標準、教材についての解説を掲載しています。また、別冊（同梱）として、ワークシート（解答例付き）も用意します。

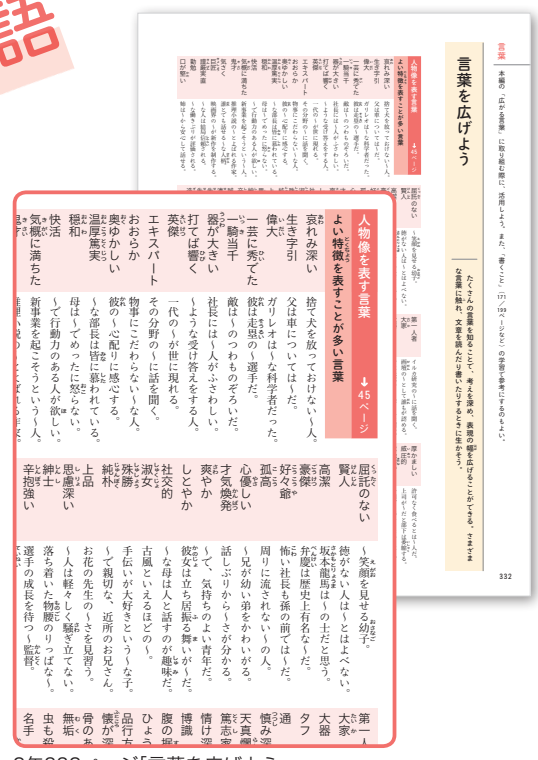
生徒用デジタル教科書(イメージ)



文字の色や大きさ、行間の広さは、調整可能です！

「読む」教材末尾の「広がる言葉」と、巻末の「言葉を広げよう」に、三学年で計千五百五十五の言葉を示しました。カテゴリーに分けて例文とともに示しており、「書く」や「話す・聞く」の学習にも生かすことができます。

言葉を広げよう



2年332ページ「言葉を広げよう」

1555語

小さな「類語辞典」として「書く」や「話す・聞く」の学習で活用できます！

